

はっけん

九州手話サークル連絡協議会
発行責任者 中元 教博
広報担当者 熊本県
事務局 〒864-0143
熊本市北区植木町大和 34-2
森 保夫

平成 26 年度 会長挨拶！！

九州手話サークル連絡協議会 会長 中元 教博

九州手話サークル連絡協議会は、昭和 47 年に「九州手話通訳者連絡会」として発足して以来、実に 40 年目を無事迎えることができました。

これは偏に、諸先輩方の人並ならぬご努力とご活躍のお陰と感謝いたしております。

平成 16 年には九手連の展望として九手連指針を採択し、九州は一つというスローガンの下、関係団体ならびに傘下県手連と連携を図りながら、聴覚障害者の方々の生活と権利を守り、その福祉に寄与する基本理念の下、引き続き活動を展開してきています。

そうした中、障害者基本法の改正、手話言語法の早期制定に向けた各地での請願行動や手話言語条例の成立等、聴覚障害者を取り巻く環境は大きく好転をしてくれています。

今まさに、各地域で当事者と手話サークル会員が一体となって行動を起こす時だと思えます。一人でも多くの県民・市民の方々や行政の方々と語り合い、手話の大切さを訴え広めることが私達にできる支援活動ではないかと考えます。

何れに致しましても、理事会等の場において、十分に議論を重ね取り組みを進めていく覚悟ですので、皆さまの更なるご理解とご協力を頂きますようお願いいたします。

今年度の役員の方々は下記の通りです。

会 長； 中元 教博(大分)

副 会 長； 辻田 亜紀(佐賀)

甲斐 弘美(宮崎)

理 事； (各県より) 福 岡： 吉満 寛 / 佐 賀： 辻田 亜紀 / 長 崎： 草野 徳

熊 本： 青山 寛六 / 大 分： 相馬 悦子(新)

宮 崎： 甲斐 弘美 / 鹿 児 島： 出森 俊郎

監 査； 福 岡： 野田 和彦 / 佐 賀： 未定

事務局長； 森 保夫(熊本)

事務局員； 田中 みさ代(熊本)

顧 問； 村本 宗和(熊本)

相 談 員； 前 淵 洋一(熊本)

大分県の理事神田さんが相馬さんと交替されましたが神田さんは通算 8 年間理事をされていました。

「また、どこかでお会いすると思います・・・」と挨拶をされ、ちよつと寂しく感じましたが、ほんとうにお疲れ様でした。

第 22 回九州手話サークル連絡協議会幹部会議・通信員会議・評議員会

2014 年 6 月 28 日（土） 「ハートピアかごしま」にて

< 幹部会議 > 報告者 ; 長崎県 草野 徳

テーマ 「今の私達にできること」

1) 防災・減災 2) 手話言語法 3) 差別禁止法・・・について

九州各地（沖縄を除く）から集まって頂き、各県の取り組み状況を説明して頂いたあと 4 つのグループに分かれて討議を行いました。

防災・減災に関する話しが多く出され、緊急 FAX 用紙や安心カードの作成と、その後の確認や見直しを行い、より使い易く良い物に変えて行くこと。防災意識を高めて維持して行くこと。ろうあ者のご近所や地域との関係を考えることなど。

今回の会議で得た他県の良い活動や情報・気付きを、地元を持ち帰ってサークル会員と共有し、地域の活動に活かしていくことが大切であると感じました。



< 通信員会議 > 報告者 ; 熊本県通信員 松下 さえ子

各県の通信員担当者・通信員の業務等の再確認。

「はっけん」発行の為の原稿依頼について、なかなか原稿がもらえない時の方法は・・・
・・・・・・・・・・しつこくメーリングで催促するしかない。

今年度の九手連機関紙「はっけん」

7 月発行：評議員総会・幹部会議・九手連研修会など・・・・・・・・・・熊本県担当

11 月発行：全九州ろうあ者大会・全九州通訳者研修会など・・・・・・・・・・大分県担当

4 月発行：各県の取り組み情報（耳の日事業・各県手連研修など）・・・・・・・・長崎県担当



< 評議員会 > 報告者 ; 宮崎県 嶋田 智子

6 月 28 日（土）鹿児島市の「ハートピアかごしま」において、九手連の評議員会が開催され各県の評議員 29 名と九手連各役員が出席しました。

議長は宮崎県の斎藤勝子さんが選出され、議事が進められました。

25 年度の事業報告・決算報告、26 年度の事業計画案・予算案について、いくつか質問や意見も出され、活発な議論がなされ、その後原案どおり承認されました。

今年度の事業計画では、各研修会はもちろんのこと、機関紙発行などの広報活動、沖縄県手連立ち上げ支援を引き続き行うこと、創立 40 周年記念のこと等があげられました。

また、役員承認も行われ、今年度は大分県理事の交代がありました。

普段は県サ連の活動を中心にしている為、九手連の活動内容など知識が足りない部分も多く今回は大変勉強になりました。

九手連の一員として、少しでも力になれるよう活動していこうと思いました。

まずは、機関紙と HP の活用から始めてみようと思います！



第 22 回九州手話サークル連絡協議会研修会 2014 年 6 月 29 日 (日)

報告者 ; 熊本県 松下 さえ子

午前の部: 矢野一規氏大阪の言い分と砂田アトム氏東京の言い分のバトル
「それでは矢野様お願いします。」との紹介に砂田さんが出てみえ、「え？この人、矢野さん?!」
昨日の交流会では砂田さんと思っていたのにと自分を疑った程、出鼻から、驚かされました。
そして、読み取りがない！大丈夫かな？と一瞬心配しましたが、心配無用でした。
手話の素晴らしさの再確認ができました。

午後はワークショップと言う事で、前半は手話の見えないルールのお話し、目上の人、同年輩、後輩に対する手話表現の違いや、健聴者が言葉に拘るため「不参加」をフ(指文字のふ) / 参加(手話) / する(手話)と表したとき、どっち？文章的には合っているがろう者からすれば意味不明。これを基に見えないルールとして、目上の人から、交流会に参加するかどうか尋ねられた時、フを出すこれは失礼、同年輩、後輩には通用するなどの話しをされた。また、後半は各県から 4 人壇上に上がり、1人目が砂田さんの手話を読み取り伝言手話をし、4 人目が矢野さんに読み取って貰い、正確に通じているかをされました。
この方法だとろう者の方達を中心に勉強ができそうです。サークルに持ち帰りやってみたいと思います。

研修会に参加して感じたこと

報告者 ；熊本県 松村 俊子

私は初めてこのような研修会に参加しました。

午前の部「大阪VS東京～」の始まりでは砂田アトム氏のとても柔らかい「手の動き」に、これからが始まるのだろう？とワクワク・ドキドキで観ることができました。身体全体での表現は本当に楽しく会場は、笑いで溢れていました。けれども私は手話を読み取ることが出来ず、皆と一緒に笑えない場面が何度かありました。

同じ場所・同じ時間を共有していても輪の中に入りきれない疎外感にも似た気持ち・・・もしかしたらろう者の方も健聴者の中では同じようなことがあるのでは？と強く感じました。これは外国語に於いても同じで英語・ドイツ語・フランス語**etc.**言葉を知らない、解らない者にとっては、どんなに楽しく笑える場所でも一緒に笑えないのです。 「手話は言語」であると痛感しました。

午後からのワークショップ「日本手話と日本語のズレ」では殆んど手話での話でした。午前の部よりも一段と難しく、どんなに一生懸命見ても理解できず、だんだん集中力もなくなってきました。ずっと座っていたのにとっても疲れました。でも、帰りに食べた「しろくま」はとても美味しかったです。

そして、楽しく貴重な経験をした一日でした。

これからも手話を少しずつマイペースで学んでいけたらと思います。

いつか皆と一緒に笑えるように！！

